



宇宙船地球号ミッション！

300年 飛び続ける ロケットを設計しよう



自由・愛情など、すべての人に共通する基本的ニーズが書かれた風船。みんなが触れる(ニーズを満たす)よう考える必要があることを体感しました

「種と水があれば野菜を栽培できる!」「マンガや本も欲しい」などロケットに積みこみたい物を考えました。「ドラえもん!」というユニークな意見も

未来を守る暮らしを考える親子環境教育のイベントを開催しました。地球沸騰化抑止や生活クラブの「グリーンシステム」は私たちが幸せになるための行動ですが、それを自分事にするとても良い機会でした。講師に一般社団法人サステナビリティ・ダイアログのみなさんを招き、事前に私たち委員も学習会を重ね、当日に臨みました。書いたり意見を出したり体験したりと、簡単そうでなかなか難しい場面もありました。ホットケーキの鉄板焼きや牛乳のカフェタイム後は意見が活発になり良かったです。参加者は、視野が広がり未来を見つめる体験をして得るものが多かったと思います。親に連れられ気乗りせずに参加したお子さんもありましたが、終わってみると楽しかった様子で笑顔が溢れていました。さらに環境教育を広めていきたいです。まずは今回開催できたことに感謝します。〈サステナブル委員 佐藤 静 1/13 札幌エルプラザ〉

INDEX

支部活動紹介

寒さにまげず元気に活動中! 厚別支部／清田支部

3

～北海道保養活動の意味と役割～
福島原発事故後を生きる人々

4～5

生活クラブのサークルを紹介します

手芸サークル「たんぽぽ」(北斗)／生活を楽しむ会(北)

6

2023 年度 生活クラブ福祉基金助成先団体紹介

すすきの こども Café わくわく／札幌 feeling 子育ての会／
子育て支援ワーカーズ ほっぺ

7

生活クラブ Wind



組織委員会

3月の支部大会を前に、支部の議案書が組合員に配布されます。そこには、皆さんの活動費を使って支部が今年度どのような活動をしたかの報告と決算、来年度の方針案が載っています。議案書をよく読んで、ぜひ参加してください。



支部大会への参加は、生活クラブを運営する組合員にとって大切な権利です。組合員なら誰でも参加できます。これからの支部活動をどのようにおこなっていくのか、たくさんの人の意見が活発に交わされることを期待します。



消費委員会

豚肉の利用はここ数年で大幅に減少しています。委員による市場調査では、市場と生活クラブの価格差はほとんどないという結果が出ています。生活クラブのものは高いと思われるがちですが、市場との比較で消費材の優位性を含め、新しい発見をすることがあります。

今年度は、古平農場や加工現場を見学して生産者と交流を深めてきました。年度最後の締めくくりにイベントとして、豚肉解体講習会を行います。組合員と生産者が集い、『豚肉』について語り合う機会は数年ぶりです。消費材の顔ともいえるべき平田牧場三元豚。皆さんもその良さを再確認してみてください。



原発ゼロ・市民エネルギー委員会

能登半島地震の震源地近くではかつて珠洲^{すず}原^{はら}の建設が計画されていましたが、住民による長期反対運動で差し止められました。もし建設されていたら被害は想像だにできません。

現在、運転停止中の志賀^し原^{はら}では、地震後にトフル^{たふる}が続出。断層や津波が想定を超えていたことが判りました。生活クラブ北海道は、日本地質学の研究者、教員、技術者ら約三百人が出した声明「世界最大級の地動帯である日本に地層処分の適地はなく、もつと専門家の意見を聞いて抜本的に政策を見直すべきだ」を支持しています。能登半島地震は、日本の原発はとめるべきと教えてくれています。



文化委員会

2024年は待ちに待ったヒロシマ・ナガサキ平和行動を再開します。原爆が投下された同じ日に現地に立ち、平和をつくるために私たちに何ができるかを考える平和行動。27回目になる今回は、8月7～9日に長崎を訪れます。なぜ戦争が起こったのかを知ることが、次の戦争を起こさない手掛かりになるはずです。

被害と加害を知り、そして希望を見つける平和行動にあなたも参加しませんか。参加のしかたは、「現地に行く」「カンパで送り出す」の2つです。3月の支部大会から文化委員がアピールを始めますので、ぜひ皆さんの参加をお待ちしています。

組織（1月度）

組合員数 12,411 名
加入 35 名 脱退 55 名

共同購入（2月度）

利用高 2億4,105万6,723円
1世帯当たり 19,423円

グリーンシステム（1月度）

Rびん	回収	19,563本
	回収率	98.3%
紙パック	売却金	9,810円
	回収率	76.0%
ピッキング袋	回収率	23.0%

福祉基金（1月度）

賛同者数 2,975 名 賛同率 22.7%

エコロ（1月度）

加入者数 3,989 名
加入 6 名 脱退 14 名

生活クラブ共済 ハグくみ（12月度）

加入件数 1,460 件

CO・OP 共済（12月度）

保有件数	たすけあい	3,903 件
	あいぶらす	1,886 件

電気の共同購入（11月）

〈供給契約者数〉 764 名

〈電源構成比 速報値〉

11月は約10割の電力を再生可能エネルギー発電所からお届けしています。

1月の理事会から

● 2023年度第3四半期（10～12月）監査報告書が監事会より提出され承認しました。

● 2024年度総代会における役員選挙委員の選出を行いました。

● 2024年度の子育て支援親子ひろば「ほっとたいむ」桑園会場について、「子育て支援ワーカーズぽら」に委託することが決定したと報告がありました。

● 2024年度福祉基金助成の応募状況について報告があり、2月の助成審査会に向けた選考スケジュールを確認しました。

● 令和6年能登半島地震における復興支援カンパについて、OCR用紙での取り組みとすることを決定しました。

● 生活クラブ連合会の2023年度活動報告および2024年度活動方針について、北海道単協として意見集約をしました。

● 旧第2センターの土地と建物の売却が完了したとの報告がありました。



名越梨紗さんによるコンサート。リスの姿でフルート・アコーディオンを演奏し、おもちゃとのコラボレーションも



ミャンマーの少数民族ロヒンギヤのパン「フォロタ」づくり



厚別

誰かの幸せを願う 「サンタになる会」

12/9 生活クラブ本部調理室

昨年度はじめて実施してとても好評だった「サンタになる会」というチャリティーイベントを今年度も行いました。テーマは〈思いを馳せる〉。前回よりブラッシュアップして、様々なブースと出し物を並行した出入り自由な会としました。

内容は盛りだくさん(右上チラシ)。特に、昨年度生活クラブで講演いただいた安田菜津紀さんの認定 NPO 法人 Dialogue for People (D4P) の許可を得て、YouTube 動画『ロヒンギヤのフォロタ』を使用したワークショップを行えたのは喜びでした。各ブースやコンサートへの投げ銭やワークショップの利益 13,406 円は、「D4P」と「上関原発を建てさせない祝島島民の会」へ寄付しました。来場者は 44 人で、原発に反対する署名も皆さんにお願いしました。

このイベントで皆さんが誰かを想うサンタとなり、子どもたちの声が響きわたる、とても平和な空間を作ることができました。「世界中がこうだったらいいのになあ…」と思える素敵な会でした。

(運営委員 国井 佳美)



支部活動紹介

寒さにまけず 元気に活動中！

交流することの楽しさと大切さを実感した今年度。各支部では活動の後半も工夫して、さまざまなイベントを開催しています。2支部から活動を紹介してもらいます。



清田 おしえて！生活クラブの豚肉のあれこれ

1/20 生活クラブ本部調理室

(株)平田牧場の黒坂さんと藤野さん、組合員 15 人が参加しての生産者交流会となりました。消費委員長研修で訪問した(株)平田牧場札幌営業所、古平農場の写真や動画、豚肉解体動画などを使い、生産者への質問形式で生活クラブの豚肉の優位性について理解を深めることができました。また、事前にブロック肉(モモ・バラ)の市場調査を行い、市場の価格とさほど変わらないのになぜ良質な豚肉を食べることができるのか、生活クラブが一頭買いに取り組む理由についても語りました。ブロック肉のすべての部位を使い、ソース豚・塩豚・紅茶豚などを試食してレシピを共有。生産者にはブロック肉のカットのコツを教えてもらいました(右上写真)。「たくさん食べても胃もたれしない豚肉は平田牧場の豚肉だけ！」という感想もあり、見て聞いて食べて納得の交流会でした。

委員のみならず、多くの組合員が生活クラブの価値ある豚肉の良さを語っていきけるよう活動していきたいと思います。

〈消費委員長 遠谷 翔子〉



豚の長所を掛け合わせた三元豚。市販品ではほとんど交配されない黒豚が入ることで脂身にも旨味がのります

～ 北海道保養活動の意味と役割 ～

福島原発事故後を 生きる人々



積丹の海にて

2011年3月11日に起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故から13年が経ちました。国は被災地復興に向けた政策を掲げ帰還への取り組みを進めていますが、現状はどのようなのでしょうか。原発事故後から現地取材を精力的におこなっているフリーライターの吉田千亜さんを講師に開催した講演会の中からお伝えします。〈主催:10万年プロジェクト 11/25 札幌エルプラザ〉



よしだ ちあさん
出版社勤務を経て、
フリーライター

講師 吉田 千亜さん

政府が早く消したかったもの

原発事故後、政府は東京オリンピックに向けて避難者、人のいない街、フレコンバック、モニタリングポストなど「目に見える被害」を消そうとしました。福島県は避難者の定義を変え、避難先でやむなく家やアパートを借りるなどした人を避難者から外しました。人のいない街として最後まで残っていた双葉町は2023年3月に避難が解除され、県内のあちこちにあったフレコンバックは中間貯蔵施設に運ばれました。約3600カ所にあったモニタリングポストも2019年に原子力規制委員会が撤去を決めました。が、「廃炉中の原発で何かあった時に放射線量を確認できない」と住民が大きく反対し、公共施設や小学校などには残りました。

福島県では未だにテレビで天気予報の後、放射線量の発表がなされています。しかし実際に細かく測定すると、そんな数値では全然取まっておらず、ホットスポットもあちこちに残っています。事故前、日本科学技術振興財団の機器で全国の小学生が空間放射線量を測定した結果によると、福島県の平均値は0.038マイクロシーベルトでし

た。事故後、国が年間被ばく量の上限を20ミリシーベルトにし、屋外での活動も3.8マイクロシーベルト以下なら可能としました。事故前の100倍の数値でも、子どもたちが外で遊んでいいと認めたということです。

本当に住民が望む復興なのか

2015年くらいから安倍政権が立て続けに閣議決定を行いました。すでに東京オリンピックが決まっていたので、原発事故から克服した日本はすごいんだということをできるだけアピールしたかったのだと思います。でも、実際には被災された方

被害を受けた方は決して生活の再建が間に合っていないかったし、戻れるとも思っていないませんでした。2017年には自主避難者の住宅支援打ち切りや助成の終了、避難指示を3分の1にまで縮小するなど、とても乱暴で強行的な政策が行われました。避難者は高い放射線量への健康不安を抱えながらも、経済的な問題や自力で次の住まいを見つけれなかったなどの理由で、福島へ戻るかありませんでした。また、公務員住宅に避難していた人たちに対しても2倍の家賃を請求したり、避難者を被告と

して提訴したりと、まさに県によるいじめの様なことが行われました。これを知った国際連合人権理事会からは「非人道的」との指摘を受けています。

同じ頃、国は県外の人向けに『知るといふ支援があります』という冊子を作りました。そこには可愛いイラストとともに、「ふるさとに帰った人たちにも日常の暮らしが戻りつつあります」と書かれています。県外の人たちの認識を変えることで、福島の人たちが被害を言いくくすためのものだと思います。世論を変えて事故を終わらせたことにしようという空気がずっと続いています。

今、福島県内に原発があることを知らなかったり、モニタリングポストが何なのかわからなかったりする小学生が6割以上もいるそうです。当時、幼すぎて事故を覚えていない場合や、事故以降生まれた子どもにも教育がきちんと行われていないためです。県内で風化がものすごく進んでいることを実感します。一方で、内閣府や経産省は高校でアルプス処理水の安全性を伝える課外授業を行い、「安全だ」とわかってよかった」と生徒に言わせるようなことをやっています。

避難指示があった福島県の浜

通りでは避難者の帰還を諦め、移住者を増やそうとしています。産官学連携の福島国際研究教育機構（F・R・E・E）という研究室を作り、研究者とその家族を呼び寄せようと、国家プロジェクトとして法律まで変えて進めています。2022年12月、国が防衛費43兆円、安保関連三文書を発表した時期と同じくして、F・R・E・Eには7年間で1千億円の予算がつけました。何が行われているかというと、ロボットテストフィールドという施設ではビルやトンネル、橋が作られ、その中を90キロの速度で無人のドローンを自由に飛ばすなど防衛装備庁の実証実験と称している。いろいろな訓練をしています。廃炉のためといいながら、全然違うこともやるんです。住民は避難しているから参画できず、やめてほしいと言いたくても避難先からは言えません。「沖繩に基地を押しつけ、福島では軍事研究が行われるのではないか」と懸念する住民の声もあります。浜通りの行方が本当に住民の方たちが望む復興の形になるのかということを、これからずっと監視し続けたいといけないと思っています。

他人事ではない核の問題

泊原発の避難訓練に参加したことがあるのですが、泊から札幌がとて近くて驚きました。もし事故が起きたら、風向きによつては汚染される可能性があります。土地なんだと改めて思いました。そもそも原子力防災訓練は、福島100分の1のセシウム放出量で考えられています。事故の規模が小さいという前提で計画が立てられ、訓練されているんです。そして、これまでは「原発は安全です」と言っていたのが、今は「原発事故は安全です」というふうになっていて、福島でも同様の動きがあります。泊原発でもそうなんですが、雪がある時の避難訓練をやらないんです。とても非現実的というか机上の空論で、本当に住民を守る気があるのなら、一番避難ができなさそうな時期にもきちんと検証することが必要だと思います。

核のゴミである放射性廃棄物の放射線量が天然のウラン鉱石並みに下がるには、10万年かかるといわれています。人の世代でいうと、3300世代です。そんな先の世代まで押しつけてしまいう原発を60年以上運転させるといってもない話がありますが、60年というのはせいぜい2、3世代。原発で得られる電気を享受する人たちが3世代であるとして、その3世代のために3300世代が迷惑を被る、なんておかしい電力供給の形なんだらうと思います。

ウクライナもそうでしたが、やはり戦争が起きたらこういう施設が狙われることも考えなくてはいいけないです。また、先ほど言った「原発事故は安全です」ということを国が強硬に進めてきているのを考えると、おそらく今度は避難をさせない方向にいくと思います。災害救助法の適用範囲をもつて狭めるのではないかとということも心配しています。

最後に、北海道の保養活動の意味と役割として被ばくのない所で過ごせることが一番の目的だと思いますが、話せるということもすごく大切な役割なのではないかと感じています。「保養先だから話せます」というお母さんがすごくたくさんおられたし、子どもたちもいつもの場所から離れた所で思いを吐露できるのはもちろん、それ以外にも安心できる大人と出会う、人と出会うという、そんな大切さもあるのではないかと思います。

〈取材／五十嵐〉

10 万年プロジェクトの活動

10 万年プロジェクトは、2011 年に起きた東京電力福島第一原発事故後の夏休みから、福島・栃木の子どもたちとその家族の受け入れに取り組んできました。被ばくした子どもたちが汚染地から離れ、免疫力を高めるため“一人でも多く、一日でも長く”リフレッシュしてほしいという願いを込めて、プロジェクトメンバーを中心に組合員による保養活動を継続しています。これまでに 205 家族 749 人を北海道に迎えました。

活動の継続は組合員のカンパに支えられてきました。生活クラブ連合会復興支援カンパによる生活クラブふくしまと生活クラブ栃木の組合員の保養実施に加えて、2015 年からは生活クラブ北海道独自の取り組みとして、組合員以外の子どもと家族のための保養活動もスタートさせてきました。事故の語りにくさや事故の風化が進むなか、私たちはこれからも子どもたちの声を聞く活動を続けていきます。（10 万年プロジェクト担当理事 小林恭江）



手芸サークル 「たんぽぽ」

私たちは北の隅っこの支部、北斗で活動している手芸サークル「たんぽぽ」です。始まりは、代表で先生である伊藤とも子さんからの「パッチワークの切った布がたくさんあるので、みんなで使わない？ また、私が新しい布を購入できるから（笑）」という言葉に甘えてのスタートでした。今、

それがどんなに恵まれていることかを実感しています。生活クラブのサークル活動助成金もいただいているので、費用の負担が最小限に抑えられている、誰でも参加しやすいサークルです。

手を動かしながらのおしゃべりも多岐にわたっていますが、何といても生活クラブの消費材の譲り合いや情報共有、イベントの誘い合いなど、毎回楽しく為になる居場所になっています。いつでも会員募集中です。初心者でも大丈夫！おしゃべりがてら一度のぞいてみませんか。
(北斗支部 寺島みどり)



いつでも見学
お待ちしております！

生活クラブの サークルを紹介します

2005 年度に始まったサークル活動は、機関会議以外に興味・趣味に応じて継続して組合員が集まる場をつくりたいとの思いから生まれたもので、支部との連携を大切にしながら組合員の自主的な集まりとして多彩な内容で取り組んでいます。登録している 50 団体から 2 団体を紹介します。

生活を 楽しむ会

みなさん、こんにちは。私たちは北支部サークル「生活を楽しむ会」です。生活クラブに縁を得て仲間とサークルを作ってから 15 年が過ぎました。料理、手芸、学び、運動や支部活動参加など、名前の通り生活の中の楽しいことを探し、実践しています。コロナ中は活動を制限し寂しく感じることもありましたが、今はまた少しずつ元に戻っています。これま



での活動を振り返ると、市内・市外を問わずいろいろなところへ出かけています。遠くは函館、旭山動物園、近くは山登り、花見、豊平峡、新千歳空港など。手芸ではパッチワークを中心に、バッグ、帽子、人形、浴衣などたくさんのもので作りました。料理では毎年恒例の 5 月の草もち作りからスタートします。それぞれの活動には得意なメンバーがいて、お互いが先生となり教え合っています。

4 月には 16 年目に入ります。こんなに長く続いた理由は何でしょう。一つには全員が組合員なので、いつも共通の話題があること。もう一つはおしゃべりとコーヒー、お弁当持参のこのサークルに発見や楽しさがいっぱいあることです。いつまで続くのかそれも楽しみのひとつかもしれません。

(北支部 浜田弘子)

2023年度 生活クラブ福祉基金

助成先団体 紹介 Vol. 3



子どもの好きなメニューを作っています

「生活クラブ福祉基金」は意志ある組合員の毎月 100 円の拠出で、生活クラブがすすめる福祉事業・活動に使われています。また、地域で福祉活動を広げている団体に助成しています。2023 年度に助成した 12 団体から、今月は 3 団体を紹介します。

多様な年代の子どもたちの居場所づくり

すすきの こども Café わくわく 代表 村上 紀美子 さん

2017 年、地域貢献を考えていたススキノのホ

り、調味料の一部には消費材を使用。米や牛乳は寄付でほぼ賄え、野菜は譲り受けるしくみがありとても助かっています。助成金で購入した 4.5L のスープジャーは、毎回用意する汁物を温かいまま提供することができて重宝しています。

子どもの食が細く悩んでいたお母さんから「全部食べました!」と聞くと、みんなで同じものを食べるって意味があるんだなと思います。「おいしかった!」「またくるね!」と言われると、疲れていても全部吹っ飛びます。地域の子どもの居場所として、今後も続けていければと思っています。

(聞き手/高橋)

テルで子ども食堂を仲間たちと始め、2020 年からは市民活動プラザ星園の食堂とミニ体育館を借りて、安心安全な食事と遊びの場を提供しています。月に一度の開催日は午後 4 時から 8 時まで開放。ススキノの頃からの人や近所の家族連れ、小学校高学年や中学生など常連が多いです。体育館で思いっきり遊べて大声を出してもいいように、施設管理者のご厚意で休館日に使わせてもらっています。食事は約 60 食作

すこやかな育ちを応援

札幌 feeling 子育ての会 代表 矢野根 絵里子 さん

助産師としても保育園での勤務経験もあったのに、本当に辛かった第 2 子の子育て。あの時の自分にはどんなケアが必要だったのか、わが子にはどうしてあげたら良かったのかという思いから、自分のように産後の子育てに困っているお母さんが「子どもは可愛いな」「子育てが楽しいな」と思えるようになる場をつくりたいと、2006 年に仲間と一緒に子育ての会をはじめました。

お母さん同士のつながりをつくることも大

事にしながら、子どもの特性に合わせた子育てや発達について学ぶ集いの場をつくってきました。助成金は、子育てお助け Book『大切な赤ちゃんのお世話の基本～離乳食編』(右写真)の印刷費に充てました。生涯にわたり大事な「食べる力」をつけるためには、発達に合わせた離乳食のすすめ方が重要であることを、保護者だけでなく子育て支援者や医療者にも伝え広げていきたいと思っています。

(聞き手/石黒)



地域の親子が集い安心して過ごせる場に

子育て支援ワーカーズ ほっぺ 代表 藤井 麗美 さん

2023 年 1 月に念願だった拠点をもちました。2019 年に設立後、コロナ禍で親子ひろばが休止するなど、活動

が大幅に制限されてしまいました。公的施設の長期休館によりメンバーが集まることもできず不自由さを実感したのが、拠点をもちたいと願ったきっかけです。助成金では木製のテーブルや絵本用の本棚、ままごと遊びができる



木製の子ども用家具が並ぶ室内

キッチンセットなどを購入し、地域の親子が集えるよう環境を整えました。生活クラブからの委託事業として大谷地と伏古で運営している「子育て支援親子ひろば ほっとたいむ」には、区の保健センターや子育てアプリから情報を得て来場する親子が多いです。拠点で自主事業として第 2 日曜に開催する「にちようひろば ほっぺ」にも来てほしいため、会場で声をかけたり地域の飲食店などにチラシを置いてもらったりしています。

今後はこの拠点で、私たちが子どもを見ている傍らで手芸を楽しんだりベビーマッサージなどの特技を生かしたりする、ママたちが楽しめる場にできたらいいなと夢が膨らんでいます。

(聞き手/敦賀)

information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東一丁目4-15 TEL 011(887)8891 FAX 011(887)7229
発行日 2024年2月20日 編集 広報委員会 / W・C・O・P・L・A・N・S・E・P・O

2024年度 支部大会日程 (2/13 現在)

支部	開催日	場所
中央	3/21 (木)	札幌エルプラザ
西	3/16 (土)	山の手会館
いしかり	3/22 (金)	花川南コミュニティセンター
手稲	3/19 (火)	地区館るくす
小樽	3/12 (火)	小樽市民センター
白石	3/13 (水)	札幌市産業振興センター
豊平	3/19 (火)	豊平区民センター
南	3/23 (土)	南区民センター
北広島	3/17 (日)	生活クラブ館・北広島
厚別	3/12 (火)	生活クラブ本部 調理室
清田	3/23 (土)	清田区民センター
恵庭	3/15 (金)	いくみ会館
北	3/16 (土)	北区民センター
東	3/13 (水)	伏古記念会館 1階ホール
北斗	3/14 (木)	篠路コミュニティセンター
江別	3/8 (金)	野幌公民館
岩見沢	3/22 (金)	岩見沢友の家
釧路	3/10 (日)	釧路町富原大通会館

★日程は変わることがあるので、支部機関紙等で確認してください

1月号 新春クイズの答え

利用する力

A	B	C	D	E	F	G	H
リ	ヨ	ウ	ス	ル	チ	カ	ラ

厳選なる抽選の結果、新春クイズ当選者6人が決定しました。
(応募総数93通)



内山 桂子(北広島) 大野 美幸(南) 荻原 敏子(東)
林 咲菜(釧路) 廣瀬 幸恵(北斗) 村松 美樹(東)

福島原発事故から13年、原発と核ゴミを考える3.9集会

原発回帰がダメなこれだけの理由

講師: 満田 ^{みつた} ^{かな} 夏花さん (国際環境 NGO FoE Japan 事務局長)

東京電力福島第一原発事故から13年、いまでも日本は原子力緊急事態宣言下にあります。しかし、日本政府は原発事故への反省をかなぐり捨てて、原発推進へと舵を切りました。一方私たち道民は、NUMOによる寿都町・神恵内村での核ゴミ最終処分場選定のための調査が、文献調査から概要調査へ進むかどうかの瀬戸際に立たされています。泊原発の再稼働を許さず、核のゴミを持ち込ませないために今何ができるのか、ともに集い考えたいと思います。福島から自主避難した穴戸隆子さんら4人からも話を聞きます。

日時 3月9日(土) 14:30~

Zoom
参加あり

会場 北海道自治労会館5階ホール (札幌市北区北6条西7丁目)

参加費 1,000円 (事前予約不要)

〈Zoom参加の方は3月2日までにメールで申し込みの上、カンパ金の振り込みをお願いします〉

◆メール: tomarikakugominodoren@gmail.com

◆連絡先: 3.9集会事務局 090-9524-7531 (井上)

主催 泊・核ゴミNO!道連

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>



すべては繋がります。すべてはトータル

小樽支部 小西 広恵

膝を痛めた。昨年の今頃、濡れ雪の悪路で滑ったのを堪えたのがキツカケ。医者もさほどのことはないと言っていたのに、あれよあれよという間に階段の上り下りも自由になり、正座禁止令が出て変形性膝関節症という有難くない病名がついた。えっ!? まだまだ登りたい山がたくさんあるのに? リハビリで良くならず、パーソナルの先生を頼った。曰く、胸椎が硬い。胸椎の硬い人は腰も硬い。腰の硬い人は股関節も硬く、股関節が硬ければ膝を痛めるのは必然...だそう。ワークを始めて四カ月、自分の身体がどれほど硬く、正しく使えていなかったかを思い知った。

すべては繋がっていて、すべてはトータル。これは身体に限ったことではないだろう。毎日サボらずワークを続けている。少しずつ身体が伸び伸びするのを実感しつつ、また山に登れる日をめざしている。

組合員のエッセイを募集します。400字程度。テーマの指定はありません。本部川瀬まで、ファックスか業務便で送ってください。



道産 道産間伐材を配合した紙を使用しています